自治会だより

文化局の活動状況

文化局長　大下芳生

☆活動状況☆

広島工業大学文化局の活動状況は、まだ著しい前進は見られないが、少しづつではあるが前進しているようである。昨年と今年のリーダーシップセミナーに於て、各サークルのリーダーの意気も上がって来たようである。今年は技術系サークルや、一般のサークルに於ても発表会を学内外に広く開催しようと計画をたてるなど、いっそうの発展が期待できる。また、音楽、芸術部門サークルに於ては、例年の定演、芸術展のよりいっそうの発展を目指し、学内に於けるアピールの強化、そして活動内容を深めつつある。

☆広島地区における活躍☆

工大文化局の各サークルにおいても、他大学との連盟等に於て、リーダーシップをとるようになってきている。現在、何事にも前向きの姿勢でサークル活動を充実させている現状をみると、工大にとっても意義あることである。

☆局の主な行事予定☆

今年の主な局の予定としては、例年の定演、芸術展、大学祭はもちろんのこと、広く学内外に発表の場を持ちたい。特に、学内の文化系サークルに対する認識を深め文化意識の高揚をめざし、学内発表会、講演会等を多く予定している。五～六月にかけて、学内野外コンサート、学内芸術週間、インタビュー週間等と計画している。

☆局のかかえている問題☆

現在、各サークルとも、活動面において大きな壁にぶつかっている。それは、サークルボックスの不足、予算の不足、発表会場の不足等である。

特にサークルボックスに関しては、体育局系のサークルと違い、ボックスは、そのサークルの活動の場であり、創造の場である。ところが、現在そのために必要なだけのスペースが確保されてないということである。この件に関してはまだ大学側と交渉中である。音楽サークルに関しては、防音装置が全く施されていないので十分な練習ができないのが現状である。また、愛好会も増えつつある中に、そのサークルボックスもないという状態である。解決策としては、学生会館の設立が強く望まれる。この会館の中に音楽サークル、執行部、体局、文局等が入れば、サークルボックスの問題はかなり解決されるであろう。つまり、このような解決策がなされないと文化系サークルの活動の発展は停滞してしまうということである。現在このような限界状態で各クラブ活動しているのである。また予算の面に於ては、各サークルの要望している金額の50パーセントにも満たない状態である。当然足らない金は個人負担となるわけで、サークルの活動を抑圧するわけである。局活動の発展を目指している文局にとっては大きな障害となっている。これを打開するためにも、同窓会各位の御援助をお願いしたい次第であります。

体育局のあるべき姿

体育局長　十河繁樹

大学は学問の場であるといわれます。学問は頭脳を使う知識中心のものでありますが、しかし、これは健全な肉体、健全な精神のもとに初めて可能となりうるものであります。それにはスポーツをやる事が大切になります。全学生がスポーツをすることにより健全なる肉体と精神のバランスを保ち勉学に励んでゆくことが大切であるといわれています。

そこで、私の訴えたい事は！。

現在の体育局というものでは、それらを実現していく上であまりに問題が多いいのです。

現　状

一、全学生のスポーツに対する正しい認識・理解の低すぎる事。

一、スポーツ活動に必要な費用（予算）が少ない為に個人負担の多い事。

一、練習場及び器具の不備の為に充分な練習が出来ない事。

以上のような問題点をかかえています。

これらを解決していく事こそ、今後の広土大スポーツの発展、広工大の飛躍につながるのであります。又体育局に所属しているクラブは約30団体あり、その体育局が学生自治会の一機関にすぎないようでは、到底これまでの問題を解決してゆく事は出来ないでしょう。それにはどうしても〃広島工業大学全学生の支援によって体育会を作る必要があります〃。この体育会というものこそ、全学生を対象とした真の広工大スポーツでありましょう。

現在の様な複雑な社会にあって、社会的に存在価値の高い人間を作ることが、人間教育の目的である。そのために、スポーツを通して、養われる強い身体、強い精神力こそ、これから望まれる人間像である。スポーツによって養われる人間関係や、人間性あふれる行動を今更ながらに見なおされるべきである。

フェアプレーの精神とは、他人にみられているから、ルールを守るというものではない。ルールに違反した場合の非難や処罰が怖いから、ルールを守るというものではない。誰も見てなくても、自分が参加しているルールだから、自主的に従うということである。自分の理性あるいは良心に照らして行動することである。スポーツを学ぶことによって身につける、フェア・プレーの精神は、同時に社会における行動の指針となるフェアプレーの精神である。大学スポーツが持つ重要性は、この点にあるといってよいだろう。

価値観の転化、多様化が進展している今日では、単なる努力主義は一般に尊ばれなくなってきた傾向がある。学業にせよ、スポーツにせよ、何もそんなにガツガツやることはないではないかという無気力、無感動な風潮がはびこり、豊かな社会の中に育った精神的、身体的肥満児が多くなったのである。時代は変ったけれども、底辺に流れる根本的なものは変わらないと思う。つまり、努力や鍛練は絶対必要であり、これなしにはすべての向上発展は望めないということである。しかし我々は、現実の問題として、この新しい時代の波を直視しなければならない。スポーツそれ自体好きであるが、運動部にまで入って苦労はしたくないという学生が増加してきている事実を認めざるを得ない。そして、その様な者に対する運動部の者の一般的見解は、「やる気の少ない者が多く入るより、やる気のある者が、少し入る方が良いし、その方が、クラブに支障をきたさない」というものである。しかし、全体として部員数が減少し、同好会的サークルが増加していくということは、重要な問題である。時代の流れであると片付けるわけにはいかない。その流れにそった対策というものも必要であろう。例えば、科学的トレーニングをとり入れる等もその手段の一つであろう。

今日、スポーツ活動に対して高い価値がおかれている理由の一つに、それが私達の人格形式、精神修養といった面に大きな貢献をしていることが考えられよう。これまでは、とにかく身体的諸能力の向上といった体力づくりの点が強調されがちであった。しかしながら、スポーツ人口の急激な増加、参加動機の多様化（たとえば、体力づくり、技術の修得、人格形成、余暇活動など）、体力づくりを主目的とするスポーツ活動への批判などからスポーツのもつ人間形成的作用が注目されつつある。

スポーツマンというと、私達はかなりはっきりした性格像を思い浮かべることができる。それは、明朗、活発、忍耐強い、単純である等といった特徴で、事実、スポーツマンの多くがこれらの性格をもっていることは広く知られている。これらの性格がスポーツ活動を通じて形成されたものか、あるいは、これらの性格をもつ者が好んでスポーツ活動に参加しているのかは明らかでないにしても、スポーツ活動に参加している者と、そうでない者との間にかなり明僚な性格の相異があることは事実である。

スポーツの良さとは、そのはなやかな試合の成果だけにあるのではな。むしろその成果に達する地味で永い修錬、即ち、自分との戦いにある。広島工業大学サークル活動が一心一体となって前進し、輝かしい戦績と、輝かしい人格を築きあげていくことを願ってやまない。

卒業記念樹　会計報告

昭和49年３月20日

広島工業大学第九回卒業生 有志殿

精報告

収入

科別	人数（人）	金額（円）
電子工学科	７９	23,700
電気　〃	８７	26,100
機械　〃	１８９	56,700
土木　〃	１０３	30,900
建築　〃	９１	27,300
経営　〃	８７	26,100
計	６３６	190,800

支出

	数量（本）	金額（円）
記念樹、貝塚伊吹（石碑共）	1	185,000
記念樹購入時、紹介斡旋者に粗品進呈		2,000
計		187,000

差引　残（円）　3,800

註　残額3,８００円は、第十回卒業記念に加算されたく学生部に委託する。

見積書１通、請求書１通、領収書２通を付する。

第九回卒業記念世話人
機械工学科　佐々木鍵二　印
平西　信二　印

人事関係

新任職員（昭和49年4月1日付）

特任教授	（一般教育）	村上満洲男
〃	（〃）	織田二郎
〃	（機械工学科）	川村文雄
講師	（土木工学科）	中山隆弘
助手	（機械工学科）	越智秋雄
臨時助手	（土木工学科）	橋本千代司
〃	（〃）	中田進一
〃	（建築学科）	近松一雄
〃	（〃）	手越義昭
技術職員	（経営工学科）	河井久
教務助手	（建築学科）	田坂豊
〃	（〃）	桑本美代子
事務職員	（教務部）	古賀五月
〃	（学生部）	山根貴和子
〃	（就職委員会室）	植田憲夫
〃	（〃）	斉藤素子
〃	（附属図書館）	長明由貴子

退職者（昭和49年3月31日付）

特任教授	（建築学科）	岡島鴨夫
嘱託助教授	（機械工学科）	柳原繁登
助手	（土木工学科）	浅野仁司
〃	（〃）	橋村邦男
臨時助手	（〃）	坂本孝昭
〃	（建築学科）	斉木崇人
〃	（〃）	杉谷康男
〃	（経営工学科）	河井久
技術職員	（建築学科）	藤木芳子
事務職員	（事務局会計課長）	免出雅雄
〃	（教務部）	吉村妙子
〃	（附属図書館）	国弘泉
〃	（〃）	大片博子